

平成29年3月11日 愛臨技
精度管理結果報告会

平成28年度

愛知県臨床衛生検査技師会

微生物部門精度管理結果報告

微生物部門精度管理担当

原祐樹、河内誠、美濃島慎、蔵前仁

参加施設および設問は例年通り

参加施設数

62施設(前年比-1施設)

設問数

菌株問題 2問 (同定感受性検査)

フォト問題 2問

昨年度からの変更点

感染症法コメントが**入力必須**に

昨年度まで

入力は**任意**で、評価対象外

今年度

入力は**必須**で、評価対象

(実施初年度のため、最終的には評価外とした)

感染症法把握も**精度管理の一環**

感染症法届出疾患を見逃し
届出不要な疾患を誤って届出



施設の検査精度が問われる



感染症法の把握も微生物検査室の重要な業務

菌株問題の成績

菌株1: *Haemophilus influenzae*

	A	B	C	D
同定検査				
菌名	100%	-	-	-
感受性検査*				
ABPC	96.7%	3.3%	-	-
CTRX	96.6%	3.4%	-	-
LVFX	93.4%	6.6%	-	-

* 微量液体希釈法、ディスク法およびE-test法を合算して算出

Haemophilus influenzae 出題の意図

生化学性状が類似する*Haemophilus*属との鑑別が正確になされているか



類似する*Haemophilus*属と**誤同定**することで**治療方針が変わる**ことがある。

正確な同定が求められる菌種の1つ

菌株問題の成績

菌株2: *Enterococcus casseliflavus*

	A	B	C	D
同定検査				
菌名	95.2%	3.2%	1.6%	-
感受性検査*				
VCM	100%	-	-	-
TEIC	100%	-	-	-
PCG	91.0%	5.4%	3.6%	-

* 微量液体希釈法、ディスク法を合算して算出

Enterococcus casseliflavus 出題の意図

生化学性状が類似している*E. faecium*との鑑別が正確になされているか

VCMに対する自然耐性を把握しているか



正確な菌種同定と自然耐性の理解を要求

誤同定が大きな問題へ発展する

VCM耐性の*E. faecium*(VRE)と勘違い

⇒過剰な感染対策につながる

VREを*E. casseliflavus*と誤同定して見逃す

⇒VREによる院内感染に発展し、

検査室の責任が問われる

フォト設問も成績良好

フォト1: *Neisseria meningitidis* (髄膜炎菌)

フォト2: *Plasmodium falciparum* (熱帯熱マラリア)

	A	B	C	D
フォト1	100%	-	-	-
フォト2	96.8%	1.6%	1.6%	-

Neisseria meningitidis 出題の意図

*N. gonorrhoeae*との鑑別が正確にできるか
(話題の質量分析でも確定は難しいとされる)

感染症法の届出が必要であることが
理解されているかの確認



誤同定によって届出されないことで
感染対策上の大きな問題に発展する可能性

本菌は感染対策が**非常に重**

要

学生寮などでの**集団感染事例**の報告あり

侵襲性感染では、**死亡例**も報告されている

接触者（医療従事者も含む）に対しては、**予防内服が必要**となることがある



対応が遅れることによる**影響**が大きい

Plasmodium falciparum 出題の意図

(熱帯熱マラリア原虫)

他の蚊媒介感染症との鑑別

(デング熱、ジカ熱、黄熱病など)

マラリアの鑑別を正確にできるか

(特に熱帯熱マラリアを確実に鑑別できるか)



熱帯熱マラリアは**重症化**することが多く、
迅速かつ正確な鑑別が必須

未回答や**誤回答**の施設も散見

感染症法コメント未回答

菌株で4施設、フオトで1施設

感染症法コメント誤回答

菌株で2施設、フオトで1施設

次年度は評価も実施予定

未回答 or 誤回答

C or D評価とすることを検討中



手引書を**しっかりと**読み、

厚生労働省HPで**正確な情報**を

医療事故につながる間違い

感受性結果の不等号間違い

結果の入力忘れ

数値の入力間違い

これらは毎年ほぼ必ず見られる間違いだが、
臨床検体ならば**大問題の可能性**も

自施設の精度向上のため

微生物研究班の研究会等に
どんどん来てください

(参加を促してください)

そして何でもご相談ください

班員一同、お待ちしております